

3月の生活表

2025年 3月

聖マリア幼稚園

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

月主題：希望をもって

保育日数（緑組12日/18日・花赤組13日/20日）

月目標（3歳児）

- ・1年間神様に守られて大きくなったことを感謝する
- ・友だちと一緒に過ごすことを楽しいと感じ、一人ひとりが違うことや、共に響き合う心持ちを味わう
- ・陽射しの明るさ、空気の暖かさ、花の開花から春の訪れを感じる

月目標（4・5歳児）

- ・これまで守って下さった神さまが、これからも希望を与えて下さることを信じて歩む
- ・好きな遊びを満足するまで楽しみ、新たな明日に向かう
- ・冬から春に変わる季節の移り変わりに関心を持つ

先日の「春の集い」には、多くのお客様をお迎えして今年度最後の発表会を無事に終えることができ改めて御礼申し上げます。子どもたちの成長を見届けて下さいましたでしょうか。

2024年度、泣いても笑ってもあと〇〇日。子どもたちと一緒にカウントダウンしておられるでしょうか？ カレンダーに卒園式を、修了式を、お預かりの最終日を記入しておられる方もおいでになることでしょうか。私たちも子どもたちと一緒に「春の集い」まであと何日とか、給食を食べるのはあと何日とか、金曜礼拝はあと何回とか、様々な「こと」に対して私たちは数を用います。そして、そこには必ず名称「もの」が伴います。そしてそれに対して責任を担う大人や子ども「ひと」が存在します。私たちの環境はこの「こと」「もの」「ひと」で構成されているといっても過言ではありません。これこそがその都度意識はしないけれど、私たちにとり、ましてや子どもたちにとっての欠かせない大切な環境を支えているのです。この様なことは、日々あまり意識しませんね。ですが、ふと立ち止まって考えてみると、これら無くしては私たちの生活は成し得ないのです。そしてそのことに気がつく、子どもたちには目標が定められます。印がつけられていると可視化ができます。自分で数えるという行為にも発展するでしょう。そして、記載された内容を見て文字への関心が生まれ、「読んでみたい」「教えて」「あ、読めた」という自らの関心がそれぞれの記憶に留められるのです。大人が教え込むのではないという大切な子どもの意欲や挑戦などの心の育ちが捉えられるでしょう。このことは1年生になるからではありません。子どもたちみんなが必要としている力であり、気がつく、見る（観察する）、やってみたい（意欲や挑戦）やれた（満足感や自己肯定感）に繋がっていくのですね。私たち大人がやいのやいのと声を荒げなくとも、日々のちょっとした工夫で子どもたちに「考えるスイッチ」が宿るに違いありません。新しい年度の開始はもう目の前です。それぞれがどんなふうにステップアップしていこうとするのでしょうか。と同時に、私たちは子どもたちに保護者の皆様にしっかり添えてこれたかな？と振り返る年度の終わりでもあります。私たちにお預け下さいました保護者の皆様のご理解ご協力に改めて感謝申し上げます。そして、緑組さん、ご卒園おめでとうございます。花組さん赤組さん、ご進級おめでとうございます。神様のお守りで無事にこの年度を終えようとしていることに感謝致します。神様から頂いた子どもたちの賜物が更に磨かれますように。

《チャブレンコーナー》

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

年聖句：私は道であり、真理であり、命である（エフェソ 2:17）

月聖句：光の子として歩みなさい（エフェソ 5:8）

毎年3月は、この聖句を選びます。これは、新しい学年に進もうとする子どもたちへの、言葉のプレゼントです。「光」という言葉には、「明るさ、希望、まっすぐさ」を感じます。困難なことの多いこの世の中ですが、そのような中でも、前向きに歩んでほしいと思います。

本当に子どもたちの中には、光が輝いています。先日の「春の集い」で、私たちは子どもたちの光を目の当たりにしました。子どもからまばゆい光があふれ出て、私たちを照らしてくれました。子どもたちの光は、これから世界を照らしてくれることでしょう。

けれども私は、こう思います。この光は、まず、子どもたち自身を照らすために使ってほしい、と。今は、決して生きやすい世の中ではありません。経済的にも社会的にも、まだまだ不安定です。なかなか明るい未来を描き出すことが難しいです。そのような中でこれから、子どもたちも、いろんなことに悩み、迷うことでしょう。時には自信を無くしたり、孤独を感じたりすることもあるかもしれません。そんな時こそ、自分が「光の子」であることを思い出して、自分の光で自分の心を照らしてほしいのです。誰に何を言われようと、周りで何があろうと、明るい光で自分の心を照らし、新たな一歩を歩んでほしいのです。

子どもたちの歩む道を照らし、子どもたちの足元を明るくするのは、もうしばらく、大人である私たちの仕事です。子どもたちが、自分の足で歩きだしていくお手伝いをしていきたいと思います。

神様の光は、いつも私たちを照らしています。子どもたちと共に、神様の光に照らされて歩んでいきましょう。

おたんじょうび おめでとうございます

＜生活指導＞

- ☆進級・入学を迎えるに当たり、基本的生活習慣の見直しをしましょう。基本的生活習慣は、学習をする上でとても大切な日々の営み（生活）になります。
- ・家族でこの一年を振り返り、様々な方への感謝と神様への感謝の祈りを捧げてみましょう。
- ・春休み中に生活時間がルーズにならないように、できるだけ規則正しく行い、次のステップへの準備をしましょう。
- ☆季節を問わず流行する様々な病気への罹患を防ぐために、起床時間・就寝時間・食事・運動・手洗い、うがい・・・を施行し、また整えましょう。
- ☆物を大切にしましょう。
- ・進級・入学に際し、再度自分の持ち物を確認し、整理整頓をしてみましょう。
- ・緑組は、ランドセルに詰める練習もしてみましょう＝自分の責任であることの自覚
- ☆春の訪れを感じながら、自然の変化を全身で受け止めてみましょう。
- ・戸外で遊ぶことにより、五感を駆使してみましょう。（目・鼻・手・耳・口）
そして、心で感じたことも、言葉を使って自分の思いを表現してみましょう。
- ☆交通安全を心がけましょう。
- ・春休み中も交通事故・怪我等に万全の注意を払いましょう。
- ・子どもさんとは手を繋いで歩きましょう。また、親子で自転車での外出をされる時は、必ず子どもを先に行かせましょう。（後ろに目は無く子どもを守れません。）

【クラスだより】

＜花組＞

先日まで、四条通の地下道で『目をつむる写真展』～ともに目をつむる～が催されていて、そこに花組のお友だちのお写真が展示されていました。カメラマンさんに声を掛けられ「目をつむれるかな？」との問いに・・・お友だちの『目をつむる』は、手を合わせてお祈りする、という姿でした。そのお話と、その『目をつむる』姿・・・小さな手を合わせてお祈りする姿に胸が一杯になりました。毎日毎日、子どもたちとお礼拝の中でお祈りをお捧げしてきましたが、その毎日の神様との時間が子どもたちの心にしっかりと刻まれていることに大きな喜びを感じました。そして、改めて、これからも子どもたちのお礼拝、お祈りの時の大切さを心に留めたいと思います。

今年度、最後の行事『春のつどい』を全員出席で迎え、みんな一生懸命に取り組み、無事に終えることが出来ました。今回、感謝祭の時と同じく、歌・劇ごっこ・リズムバ

ンドをご披露しました。始まりは花組のお二人のお友だちのご挨拶でスタート。大きなお声で沢山のお客様に動じることなくしっかりとやり遂げてくれました。歌は、マリアで大切にしている四季（季節）を感じられる歌をその時々で歌うこと。昔からある童謡も大切に歌からイメージする声色や表現する楽しさを子どもたちにはその年齢に応じて思う存分感じて欲しいと願っています。劇ごっこは、マリアの大切な羊のお話を選びました。花組さんは1月末に転園されるお友だちがありました。また、2月末にはお隣の仲良しのプレプレちゃんがお引っ越しされ、お別れが続いて、子どもたちは寂しさを露わにしていました。更に、3月にもお引っ越しのプレプレちゃんのお友だち、赤組の大好きなお兄さん（昨年小花ちゃんだったお友だちは花組と一緒に過ごしていました）とのお別れ・・・と、寂しいけれど・・・でも、僕たち私たちはいつもひとりひとりどこにいても神様に守られているんだよ！そして繋がっているんだよ！というメッセージを込め、子どもたちと取り組みました。リズムバンドは、子どもたちに導入の時から「今回の指揮者さんは先生ではなく、大きい花組さんのどなたかにしてもらいます。」ということも伝えて、その上でやりたい楽器を選んでゆきました。楽器の数には限りがあるので、以前したことがあるお友だちには、今回はまだしたことのないお友だちに譲って欲しいこと、なども伝えています。また、小花ちゃんは大きい花組さんになってから後ろの楽器にチャレンジすることも伝えました。赤組・緑組になれば更に楽器の数が増え、「かっこいいな！」「すごい！」「やりたい！」と感じた楽器にもチャレンジする機会が巡ってきます。本番の日を迎えるまでのその過程もとても大切です。本番にドキドキして練習みたいに出来なかったな～大丈夫！あなたの一生懸命を知っているよ！子どもたちの成長をしっかりと感じられたこと、子どもたちの来年度の飛躍を確信した『春のつどい』でした。沢山のお客様に温かく愛の溢れた眼差しで見守っていただきましたこと心より御礼申し上げます。

最後になりましたが、この一年間（途中入園のお友だちはそれぞれの期間）大切なお子たちの園生活の場にマリアを選んでいただき、毎日お預けくださいましたこと、心より御礼申し上げます。至らぬ点多々あったかと思えます。しかし、どんな時も子どもたちを一番に、子どもたちを真ん中に、幼稚園と二人三脚で園生活をお支えいただきましたこと、感謝の気持ちで一杯です。本当に子どもらしく愛らしい子どもたち。ご家族の愛情が溢れ出ている子どもたち。4月からの新しい環境でもきっと心穏やかに新しいことに心弾ませて笑顔が溢れると信じています。大丈夫だよ！と太鼓判を押して赤組に送り出したいと思います！小花ちゃんたちは花組のリーダーです！また小花ちゃんとはひと味もふた味も違う花組になりますように。

皆様の上に神様の豊かな祝福がありますことを心よりお祈りいたします。

心より感謝を込めて。ご進級おめでとうございます！

＜赤組＞

♪4月に4月になったなら～み～んな嬉しい緑組！先日の春の集いの最後に堂々と歌ってくれた赤組さんたち。ジーンと感動した担任でした。まだ寒さが残る中、日差しは暖かく春の訪れを知らせてくれています。赤組7人と過ごす日々も残りわずか、緑組に進級していくんだとしみじみ感じています。

さて、「春の集い」には、春とは程遠い寒さの中、お越し下さいましてありがとうございました。歌・劇ごっこ・リズムバンド・各準備片付け等、それぞれの場面で、子どもたちの1年間の嬉しい成長を感じていただけたことかと思います。お歌の1曲目、「雪のペンキ屋さん」。歌っていると「『ごもん』」ってなあに？」「『ドア』とは違うの？」と歌詞の意味を子どもたちから聞かれ、またその言葉と似ている物と比較し、さらに質問するということもありました。知ろうとする探究心が芽生えたと感じました。2曲目は「山のワルツ」。

10時に幼稚園に来るクマさんはお寝坊さんだね！と笑い合いながら歌い始めました。それからは「今日早くに起きたから朝ちょっと家で遊べたんだよ」と時制へと繋がった子どももいて嬉しい出来事でした！そして、頑張ったね！よりも、楽しかったね！がぴったりの程、心の底から楽しんで取り組んでいた劇ごっこ。次に誰が登場するのか全体の流れを把握して自分の出番はもちろん、お友だちや緑組さんの出番の時にはそちらを向いて手招きなどの合図をしていた赤組さんでした！1人で前に出てセリフや説明、それぞれがドキドキしていたことと思いますが緊張や不安に打ち勝ってやり切ることが出来て良い経験になったことと思います。また、リズムバンドでは、自分たちのやりたい楽器が出来た子どもたち。大太鼓は当日がピカイチの叩き具合で演奏を締めてくれました！シンバルは大太鼓と息ぴったりで思い切り演奏してくれました！ウッドブロックは2人で楽しげに、ハンドベルは小鳥のさえずりのような音で演奏してくれました。そして指揮者さんはドキドキの中リーダーとして最後まで引っ張ってくれました！みんなの気持ちがこもった演奏でした♪そして、最初から最後まで...、最初のご挨拶の花組さんが終わると大きな拍手を送ったり、花組さんの劇ごっこをジッと見守ったり、自分の出番だけでなく、もちろん準備や片付けも覚えて取り組みました。そして最後のご挨拶もとても立派でした！そんな風に春の集いを終始楽しんでいた赤組さん！本番だけでなく、準備期間の中でも、緑組さんの「真剣さ」を隣で感じ、「真剣」に取り組もうと気張ること、その先に本番を終えてご家族の皆様や先生から沢山褒めて、認めてもらい、自分の頑張りを実感し自分の中で大きな経験となること、これから先進級に向けて大きな力になることを確信しています。

今ここにいる赤組さんを目の前にすると1年で心の身体も「大きくなったなあ」としみじみ思います。1年前、ドキドキの中1階の赤組保育室へとやってきた7人の赤組さん。はてさて、私もどのように心の距離を縮めようかと考えながら過ごしていましたが、このクラスの子どもたちはピタッと私にくっついてくれ、「先生、大好き」と気持ちをストレートに伝えてくれたのです。そんな可愛い子どもたちとの毎日は幸せで私にとっても充実した1年でした。少人数のクラスだけれど互いに思いやり、クラスの雰囲気は穏やかでした。合同保育で緑組さんと過ごす中で、緑組さんの行いに圧倒されつつ、「すごい！」と感心したり「かっこいい！」と一緒にやってみたりして緑組さんの存在が大きくなったと思います。何気ない瞬間に、「緑組さん、ものすごく頑張っているね。いつもありがとう」と年長担任へと告げていた一人の赤組さん。側で用事をしていた私は思わずそちらを向いて微笑み、感動しました。確かに子どもたちは進級に向けて1歩1歩進んでいると感じました。自分のことだけでなく周りも見られるようになってきた赤組さんは「どんな緑組さんになりたい？」の質問に

「緑組さんが縄跳びを教えてくれたみたいに私も教えてあげる優しい緑組さんになりたい」
「困っているお友達を助けてあげたい」などご自分たちがしてもらった経験がちゃんと心に残り、みんなより一つ小さい花組さんに目を向けていることがわかりました。神様のお見守りの下、お家の方々のお見守りの下、成長してきた赤組さん、きっとみんななら大丈夫！これから周りの人々に感謝を忘れず育っていつてくれることを願い、お祈りしています。

最後になりましたが、1年間、行き届かず至らぬ点多々あったかと思いますが、保護者の皆様には温かく見守りご協力下さったこと感謝申し上げます。皆様方の上にも神様のお恵みが豊かにありますように、お祈り申し上げます。少し早いですが、7人の赤組さんご進級おめでとうございます！

<緑組>

半年ほど前のことでしょうか。パン給食についてくる牛乳瓶を手洗い場で濯いでいる子が「先生あんな、僕のコップと牛乳瓶とおなじなんやで」と教えてくれました。はじめ、なんのことだかわからなくて「どういうこと？」と戸惑う私に「ほら、みてて」と牛乳瓶いっぱいに入れた水を慎重に自分のコップにうつすと...瓶の水はコップ一杯とぴったり同量でした。私は子どもの発見に軽く興奮しました。子どもらが、手洗い場でコップと牛乳瓶と歯ブラシで歯磨きをしているだけ...ではないことは重々承知していますが、こんな発見していたなんて！と...胸が躍りました。何をそんなに驚くことがあるのか？とお思いかもしれませんが、計量カップや重さを計るスケールがあるわけでもありません。ましてや体積を計算して出すなんてこともありえません。そしてそれを問題として問われて「答え」を求めた訳でもありません。ただ偶然に...「同じ」であることを発見し、何度も何度も入れ替えているうちに「やっぱり」同じなのだと確信したから「先生...」と教えてくれたのです。形も重さも全く異なる「質」の入れ物に水を入れたら「同量」であることを、面白いと思い、気づき、新たな疑問をもたらしました。「僕のコップだけなのか？」ということ。この子の発見は、まだ続きます。私に見せてくれたように、自分のコップ一杯の水が牛乳瓶の同量であることを、友達に教え、その友達のコップ一杯の水が自分と同じように同量になるのか...という「実験」と「検証」を繰り返しているのです。「こうしたら？」とか「これを使ったら？」とか、何かしらの提案をしたわけではありませんが、子どもは自らの発見・気づきを通して身近なモノを通して体験的に学んでいるということに私は嬉々としたのです。幼児期は遊びの中で学ぶと言われます。もっと言えば生活の中で学んでいるということです。牛乳瓶やコップでなくとも質や量に関する発見は日々の中にたくさんあって、その「気づき」にどうかかわるか...そして「気づき」があるように人的・物的に環境を整えることが幼児教育です。すべてにおいて「恵まれた環境」とはおそらくどの園も言えないと思いますが...私たちに出来ることを整え、関りをもって卒園まで過ごすして参りました。卒園していく、緑組12人はここでの「気づき」「学び」をもって新たな社会へと巣立っていきます。幼稚園のように...とはいかないことがたくさんある中で、子どもらが自らの発見に胸を躍らせ、新たな探求心をもって学んでいけば、必ずやそれは確実な「学力」になります。何が牛乳瓶になるのか？何

がコップになるのか？「同じ」であることの「不思議」の先に伸びるベクトルは多方向に伸びていきます。子どもたちのこれからに「発見」と「楽しみ」、そして「疑問」と「探求」が待っていますように、そして各々が「自分らしく」あるための、礎を築き、さらなる成長と遂げられることを、心から願っています。

♪たくさんの毎日をここで過ごしてきたね 嬉しいことも悲しいことも きっと忘れない
たくさんの友達とここで遊んできたね 水あそびも雪だるまも ずっとわすれない
さよならぼくたちのようちえん ぼくたちの遊んだ庭
桜の花びら降るころは ランドセルの1年生...

いろいろあった毎日でも泣いて笑って、よく幼稚園にきましたね。
子どもたちも送り迎えに園行事とご理解ご協力くださったお家の皆様。
この日々を宝物にしてください。
ご卒園おめでとうございます。
皆様のうえに、神様のお恵みと変わらぬ愛がいついつまでも豊かにありますように
お祈りしております。